



卒業記念号

発行所
長崎県立五島高等学校
新聞部

長崎県五島市池田町1番1号
平成26年3月1日発行



我に艱難辛苦を与え給え

五島高等学校長 西川 晃 二



五高生諸君は、この世が「多様な価値観」に圍繞されているという事を周知である。しかし、その意味を真に理解するには、これから数年、いや数十年かかるのではないかと。これまでの人生で諸君はどのような価値観を体験して来たであろうか。今振り返ってみたい。

まず、この世に生を受けたその瞬間を。フランスの文豪ロマン・ロランの「ジャン・クリストフ」の序章

「多様な価値観」に圍繞されているという事を周知である。しかし、その意味を真に理解するには、これから数年、いや数十年かかるのではないかと。これまでの人生で諸君はどのような価値観を体験して来たであろうか。今振り返ってみたい。

これからの人生に楽観してはいけない。苦しむことが大事である。苦しみの後に期待してはいけない。苦しみの後に苦しみが待ち受けている。それでも生きていく。それが大事なことである。ほとんどの諸君が大学・専門学校へと進学するであろう。大学生活をどのように過ごすか。社会へ出る前のモラトリアムとして安閑として過ごすのも一興である。むしろそうであることを期待したい。しかし、学生生活は長くはない。人生で最も輝いた時代であったと振り返るのも楽しいではないか。

部説 この島の誇り

部説

今回我々新聞部はエネルギーに関する先端技術について考えてみた。今、皆さんは五島が利用している発電システムをいくつか知っているだろうか。主に知られているのは太陽光発電と風力発電の二つだ。それでは、内火力発電や風力発電の一つである洋上風力発電については知っているだろうか。内火力発電は、五島や対馬、壱岐で使用されている高温・

高圧のガスを用いる発電システムだ。五島内では奥浦にこの発電所はある。洋上風力発電は、海洋で倒れない風車を用いた発電方法だ。五島で建設されたものはその中でも「浮体式」と呼ばれるもので、主に水深の深い地域に有用だ。現在この浮体式洋上風力発電を実用しているのはスウェーデンのみで、日本では五島の梶島沖において実証運転が行われている。発電効率や環

境での影響を検証したのち、2016年の実用化を目指しているそうだ。私は、この洋上風力発電がこれからの日本のエネルギー問題の解決において大きな意味を持つだろうと考えている。現在日本のエネルギー自給率は、原子力発電を含めて2011年度では13%（東日本大震災が収束した）2012年では18%と先進国の中でも最低クラスである。私はこの結果を見て、日本のエネルギー問題を解決しなければならぬと思いをさらに強くした。皆さんはどう考えるだろうか。

一步は、どんな所でも踏み出すことができる。この小さな島の中でも、日本の未来の礎となるだろう一手が打たれているのだ。そう、小さな島から生まれる大きな誇りがあるのだ。ならば、小さな島から私たちが一步を踏み出す時、私たちは誇りを持って大きな世界に飛び立とう。未来において、この島がどう変わっていくかは誰にも分からない。それでも、この島に残っているだろう誇りは、いつまでも私たちの誇りであり続けるだろう。(偽)

卒業生のみなさん

生徒会長 岩 永 莉 奈



先輩方、御卒業おめでとうございます。みなさまの卒業式が、こんなにはやってくると思われなかった。卒業式が、こんなにはやってくると思われなかった。卒業式が、こんなにはやってくると思われなかった。卒業式が、こんなにはやってくると思われなかった。

の選んだそれぞれの夢に向かって、一人ひとり違った道へと進んでいけること。そして、その道は決して楽なものではなく、時には迷ったり、嫌になったりすることもあると思えます。そのような時には、これまでの高校生活を思い出して下さい。みんな頑張ったこと、喜び合ったこと、つらかったこと、悲しかったこと、そして、試験の前に友達と励まし合い必死に勉強したこと。仲間と共に過ごしてきた日々や高校で学んだことを生かして、乗り越えて下さい。

ではなかなか成績を残せなかった。新人戦では一回戦敗退という後悔が残った。この敗退が彼らをさらに奮い立たせることとなった。この時の後悔を忘れず、自分たちの後さ、状態をすべて見直し、仲間同士で助言しあいながら練習を重ねていくこと。一つひとつ改めていくことで、これまでの練習よりもはるかに得るものが増えた。彼には普段から心がけていることがあるという。「ミスはひとつでも減らす」「二本一本を大切に打つ」という二つを掲げている。そんな毎日の積み重ねが実力となっていくということを実感できたと話してくれた。

「ここまで男女ともに支えあってきました。これからは高総体に向けてがんばります。」
現在バドミントン「同好会」は「部」への昇格を審議中である。部へと昇格したこのチームも期待したい。彼らは今日もさらなる高みを目指し努力を重ねている。(蓮)

バドミントン同好会

《部活動紹介》



バドミントン同好会部長 濱村歩夢くん

「期待」。今の私の気持ちを表現する言葉。その「期待」がさらに大きなものとなったのは、バドミントン同好会部長、濱村歩夢くんの決意を聞いた時であった。今回、バドミントン同好会は一月に行われた全九州高鍋大会において、各トーナメント二位からなる二部リーグで見事優勝を飾った。これまでバドミントン同好会は、男女共に五島の大いなるもの、県での大会



《インタビュー》

高校生平和大使



古賀野 遥さん

な商業施設、ショッピングセンターの前に立たせてもらって、そこで活動しています。

私たちの住む長崎県は、様々な歴史を歩んできた。そして、被爆国である日本の平和に対する思いは強いものであると思うが、長崎に住む私たちの平和に対する思いは、より一層強いものであるべきだと考える。

今回新聞部は、高校生平和大使である古賀野遥さんに、平和大使の活動、彼女の平和への思い等取材した。

平和大使ってというのは、具体的に何をしているのですか。

古賀野 八月の夏休み期間中に、スイスにある国連へ一年間集めた高校生一万人署名活動の署名を届けることが一番の任務です。

その署名活動というのはどこでしているのですか。

古賀野 五島だったら大き

平和大使は全国にいます。

古賀野 そうですね、基本的には全国にいます。今年

は二十人で、それぞれがそれぞれの場所で活動しています。

平和大使をするきっかけというのは何だったのですか。

古賀野 きっかけは、私が幼稚園の頃に、家族で広島に旅行に行った時のことでした。両親から原爆に関する本を一冊プレゼントしてもらって、それが幼い私にとってすごく衝撃的でした。と忘れられませんでした。

小学校とか中学校とかで平和学習を進めていくうちに自分にもできることがあるんじゃないかな、と思って知ったのがこの活動でした。

では、その署名活動をやっている中で、感じた

りすることかあります。古賀野 一度長崎の方で署名活動をさせていただいたんですけど、長崎だと、原爆に関する知識とか戦争に関する思いが強くて、自ら署名をして下さる方が多くいらっしやいました。でも、五島だと、署名活動自体を知らない方も多くて、中には『核がないとこの世界は成り立たない』と言う方もいらっしやいました。そういう中でこの活動は難しいですね。

五高生にも出来ることや、こうなって欲しいなというのがありますか。

古賀野 部活動とかで署名に参加するって言うのは難しいと思います。だから、機会があったら、その署名活動している所に足を運んでもらって、少しでも多くの署名をしていただければと思います。

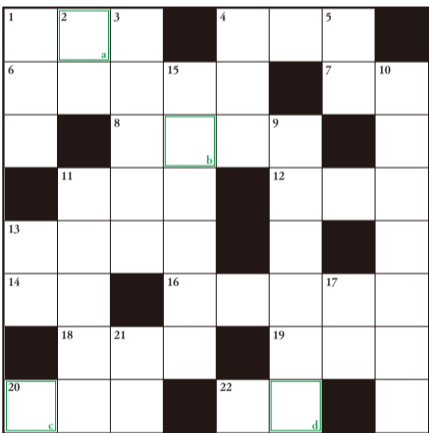
平和が大切だということはもちろん前のことではあるが、平和を実現するために私たちが出来ることをしている人は少ないのではないだろうか。今できることを、そして未来をよりよいものにするために出来ることを、進んで出来るようになりたい。(紅)



心を合わせて、前へとすすむ。



今年度は、例年と違い、体育館で行われた体育祭であった。最後のレースは「二人三脚」となったが、思いは変わらず、優勝へと向かう。(槍)



クロスワード

ヨコのヒント

- ① くじらの古名
- ② 甘辛ソースと海の幸
- ③ 幼いうちは小児科へ
- ④ 日本の貴族が蹴
- ⑤ きつねの大好物
- ⑥ 分かれる。他動詞
- ⑦ 扉
- ⑧ 状況を〇〇する
- ⑨ ロシアのハヤシライス
- ⑩ やもりに似てる
- ⑪ 火がつくこと
- ⑫ まか〇〇〇
- ⑬ 国は一兆、おやつは三百
- ⑭ くもの〇〇

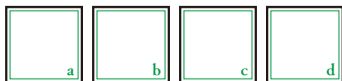
タテのヒント

- ① 〇〇〇〇断り
- ② メインと〇〇
- ③ 奈良のくぼんだ地形
- ④ 「長押」を何と読む?
- ⑤ 笑う〇〇には福来たる
- ⑥ バレンタインデー
- ⑦ 左右非対称
- ⑧ いじめて追い出すこと
- ⑨ 合格祈願
- ⑩ 酸性・中性
- ⑪ さと〇〇じゃが〇〇、さつま〇〇
- ⑫ LOCK解除



↑答えはこちら
作成：新聞部

答え



制覇の理想

既読 5:10

①全国の舞台に立って思ったこと、感じたこと



才津 為央
(2013長崎しおかぜ総文祭総会開会式生徒実行委員)

- ①全国からわざわざ長崎にたくさんの人が集まって、緊張した。今までの総文祭とは一味二味三味違う味のものを作りたく、実行委員全員の一つの思いを実現するために頑張った。総文祭で長崎を盛り上げたかった。
- ②ジェットフォイルの乗り方をマスターした。今までは人をまとめる役職が多かったが、今度は一委員として客観的に見れて、進化できた。さらに広い範囲で人の関わり、コミュニケーション、信頼関係を築くことの大切さを学べた。

5:10



佐々野 享一
(2013長崎しおかぜ総文祭総会開会式生徒実行委員)

- ①いい体験ができた。開会式を作るための会議での雰囲気や、どんより感があったおかげでいいものを作ることができた。ものの見方や考え方が変わった。
- ②新しい考え方を手に入れたことは、自分にとって大きな進歩だった。また、これから生きてくると思う。

5:10



中村 光 [百人一首かるた部]
(平成23年度～平成25年度/全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会出場・全国高等学校総合文化祭出場)

- ①かるた部はメジャーではないが、全国に行くことで、たくさんの人がしていることに喜びを感じた。緊張よりも楽しさが大きかった。
- ②かるた部は精神面が鍛えられるので、精神面が強くなり、受験勉強にも生きてきた。

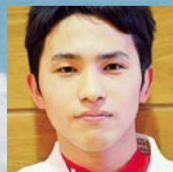
5:10



戸川 祐華 [陸上部]
(平成24年度/全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 女子100mH出場)
(秩父宮賜杯全国高等学校陸上競技対校選手権大会)

- ①いろんな選手を見て、自分との力の差を感じ、まだまだだと思った。
- ②陸上で、仲間と支えあい、励まし合い、きつときは声をかけあって、いろんなことを乗り越えられた。このチーム力や、仲の良さはあってよかった。

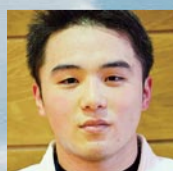
5:10



都々木 宏明 [柔道部]
(平成24年度/全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 -55kg級出場)

- ①全国はやはりレベルが高く、会場にのまれてしまった。
- ②粘り腰がついて、何事にもあきらめない姿勢が身に付いた。

5:10



祝 貴之 [柔道部]
(平成25年度/全国高等学校総合体育大会柔道競技 -81kg級出場・国民体育大会 柔道競技 少年男子(長崎県)出場)

- ①県の代表としての責任感からいつもよりも緊張した。
- ②小さい頃から柔道をしてきて、礼儀の面も鍛えられた。これからも生きてくると思う。

5:10



送信